



MARIANISTES

—— マリアニスト ——

モンスター・ペアレント

マリア会 山崎 政利

この言葉は、保育園、幼稚園、小学校などの教育現場で理不尽な要求をつきつける親たちを指して、ここ数年言われ始めた呼び名のようなものである。彼らが引き起こす事例を見てみると、「エッ、ほんとう？」と絶句してしまうようなクレームが多い。彼らとの対応に苦慮している教育機関がじわじわ増えているのであろうか、とうとうこの呼び名をタイトルにしたテレビ番組まで放映され始めた。

ところで、「なんでそうなるの?」「どうしてそんなことをしちゃうの?」首をかじげたくなる大人たちが増えていると言われる。公共の場で突然キレて暴言をはき、暴力さえふるってしまう大人たち。医療を受ける立場にありながら医師や看護師に無理難題をおしつけ、恫喝し、暴力に訴える大人たち。これまでの常識では考えられない目的のために救急車の要請をして恥じない大人たち。個人で、時には集団で、何かのタガがはずれたみたいに、とんでもない行動に突っ走る大人たちの姿が目立つようになってきたという。

そうした事件が起きた際に、なぜそういうことが起きたのかを説明しようとするコメンテーターの発言を聞いていると、たびたび“自己中心主義”“自子中心主義”“ミーイズム”などの言葉を耳にする。自分のこと、自分の子や家族のことしか考えられず、他者の存在、異なる立場や意見に思いをはせることができない心のありようが背景にあるとの指摘である。たぶん間

違った指摘ではないような気がする。他者への非寛容さ、ゆとりのなさ、忍耐力のなさ、社会や権威に対する不信感、その他いろいろな理由もあげられるかもしれない。

でも疑問も残る。こうした人たちはなぜそんな心の状態に陥ったのだろうか。それらのことは一部の特殊な状況に置かれた人たちのしでかす特殊な事柄なのか、それとも未来のわたしたちも多かれ少なかれ起こしうることなのか。

自分の心の中に巣くっているエゴイスティックな面、差別感情、さまざまな欲望、などを思うとき、それらがいつなんどき爆発して、似たようなことをしてしまわないだろうか、つい考えてしまう。

『レジナチェリ』では、昨年からハーケンワース神父様の著書『イエスの徳に学ぶ』を毎月の例会のときに利用させていただいた。この本はご存じのとおり、シャミナード師のいわゆる“徳の体系”を平易な文章で説明してくれている。シャミナード師は、キリストの徳を身につけ、キリストに似た者となることは全キリスト者の大きな目標であると考えておられたが、マリアニストに向かってそのことを何度も強調された。

キリストの徳を身につけていこうとするとき、最初に取り組まなければいけないのは、わたしたちが生来身につけているエゴイスティックな部分をどのように乗り越えていくかということだと看破したシャミナード師は、準備の徳という表現でそ

のプロセスを説明された。上述のハーケ
ンワース神父の著書でも、この部分はとり
わけわかりやすい例をあげながら、わたした
ちの意識的、無意識的な行動の多くが、ど
れほど自己中心的な心に影響されており、
またその影響から逃れることがどれほど
容易ではないかということが述べられて
いる。

海外だより

ブラジルから一時ご帰国中の 青木勲神父様を囲む懇談会

去る5月9日（金）、シャミナード修道
院会議室において、ブラジルで30年以上
に亘って司牧に当たって来られ、一時ご帰
国中の青木勲神父様を囲む懇談会が、ML
Cの主催で行われました。神父様は、パウ
ル市の名誉市民であり、前号でご紹介した
中村長八神父様の列福調査にも携わって
おられます。

「マリア会の網にひっかかったことを感
謝しています」と、今までの経緯を話され
た後、Vision—Passion—Missionのプロ
セスを経て、ブラジル行きにご自分の
Mission（使命）をかけるに至ったこと
をお話くださいました。

ブラジルでの司牧をとおして、ブラジル
では人々の生きざまと信仰と使徒活動が
一体となっており、考えの基盤は「私たち
は一緒」。信仰、みことば、歴史、生活、
いのちがひとつになっていて、共に闘い、
共に力を合わせるという意識が大切にさ
れていると感じておられるとのこと。

1908年4月28日、783名を乗せ
た初めての移民船が神戸を出てから、今年
でちょうど100年。移民者の中には、九
州の古いカトリック信者の家族が約100
世帯あり、不自由な信仰生活のなか、

自我の鎖から解き放たれ、心のうちに真
の自由と平和を宿し、他者に対して大き
く開かれた愛をもって生きられたイエス
やマリアを仰ぎみるとき、自分との彼我の
距離の大きさにため息をついてしまう。そ
れでも、そこから歩み始めることが、モン
スターとならないですむ道なのだろう。

1919年、初めての日本語による「公教
要理」が、当時のマリア会、暁星の青年会
会長であった山本信次郎氏を通して送ら
れました。ここに既にマリアの家庭の基盤
が築かれていたのです。

現在、担当地区の日系の信徒は16,000
人。「告解を聴くだけでも大変・・・」な
ほどですが、天候に左右される生活、貧し
い医療にもかかわらず、日本人は朝早くか
ら夜遅くまで働き、子どもの教育や躰にも
熱心で、最近では国の主要なポストにも多く
の人が就いているようです。

もう一つマリア会と関わりのあるもの
として、1917年に山本信次郎氏が、日
本人の改宗を願って考案したご絵と祈り
のカード、「暁の星の聖母」を中心にした
祈りのグループが、日系の人々の唯一の信
仰を深めるグループとして、当初ほど盛ん
ではないが、今でも30くらいのグループ
が継続して残っているということです。

また、神父様は、人々の霊的な生活のた
めに、マリア会の霊性をどのように伝えて
いるかを、私たちにも分かりやすく説明し
て下さいました。

最近は大勢の移民者の子孫が日本に來
ていますが、日本の習慣が分からない、言
葉の壁もあるなどで、墮落の道をたどる人
たちもいます。日本はいま多国籍時代、多
文化の時代を迎えています。教会も、「日
本人の教会」ではなく、「日本にある教会」
として、彼らを共同体の一員として迎え入
れて欲しいと願っておられました。

（文責：岩崎）

連載 マリアへの奉献（7）

富来 正博

《聖母マリアの奉献》（つづき2）

聖母マリアは深い信仰によって神のみ旨を受け入れていかれました。聖書をとおして、ご両親を通して、種々の出来事とおして神のみ旨はマリアに示されました。さらにご自分の思いの中に現れる善いものを求める心の中にも神のみ旨は示されたことでしょう。天使が神のみ旨を告げた出来事の前に、聖母マリアが神のみ声を聞かれたことがあったかどうかについては、聖書は何も触れてはいません。しかし聖母マリアはこれらすべてを信仰をもって受け入れられたことは確実です。マリアは信仰のうちに創造主である神と深く一致しておられました。ところがイエスのご誕生のときから、神のみ旨はイエスを通して示されることとなります。「偉大な人、いと高き方の子」イエス・キリストの一挙手一投足、その口から発される一言一言の中に神のみ旨を見出していかれました。すべてが理解できたわけではありません。「両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった」（ルカ福音書2章50節）。しかしマリアはこれらのことをすべて心に納め、信仰のうちに受託されました。マリアはイエスの最初の弟子となられたのです。マリアは親としての大きな愛情をもって人としての生き方をイエスに教えられたでしょう。そしてイエスはマリアから教えられた人間としての生き方とおして神の啓示となられました。

マリアにとって神との一致は最高の目標だったといっても良いと思いますが、いまやこの神との一致はイエスとの一致という形で実現されます。イエスのように考え、イエスのように感じ、イエスのように話し、イエスのように行動する。私たちキリスト信者が目指す行動様式そのものです。そのためには、聖母マリアにとって、母であるが故の一層深い信仰が求められ

たことでしょう。それはイエスの単なる模倣ではなく、深い一致、同じ命を生きる信仰の生活でした。



グループ紹介

マリアの子の共同体

吉田 由美

「マリアの子」は、大和修道院において、Sr. 今井のご指導のもと、共に祈りを捧げ、マリア様の取り次ぎとご保護を願いながら、創立者の霊性やマリアニストの使命について学んでおります。明るく和やかな雰囲気の中、シスターに楽しく、分かりやすく説明をしていただき、みなさんと共に毎回感銘を受け、自然と分かち合いも多くもたれております。

私は、初めてこの会にお誘いいただいてから数年後、なんの迷いもなく奉献のお恵みに与ることができました。後に、以前に参加していた方からの「奉献を軽く考えている」との苦言に、「まだまだ勉強不足で自分にはふさわしくなかったのでは・・・」と気持ちが揺らいだこともありましたが、会員のみなさんの「マリア様に全てを委ねていれば大丈夫よ」との温かい言葉に励まされて、今では信仰生活に欠くことのできない大切な支えとなり、感謝しております。いつもマリア様との契約を忘れずに、日頃の行いを通してマリアニストとしての生き方を少しでも周囲に知らせていきたいと思っております。これからも、ご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

《 サラゴサの精神 》 その2

—マリアニストの霊性に基づく 30 日の霊操—

この霊操は、参加者がマリアニストの精神を深く愛するものとなることを目指しています。

30 日の黙想全体は、カナの粘土の壺を形づくる過程です。私たちは神の手の中にある粘土。神はこの粘土を用いて私たちをご自分の姿に似せて形づくれます。

30 日は 4 週に分けられ、それぞれに固有のテーマとシンボルがあります。

第 1 週：お告げのマリアと出会う。シンボルは“水”。

第 2 週：マリアと共に十字架の下に立つ。シンボルは“粘土”。

第 3 週：高間におけるマリアと使徒たちと共に。シンボルは“手”。

第 4 週：カナの婚宴に仕えるはしためマリアと共に。シンボルは完成した“壺”。カナにおけるように水を満たし、ブドウ酒を満たす壺です。(Sr. 小林幾久子)

◆◆ 編集後記 ◆◆

地球温暖化対策を急げ。今さかんに叫ばれている温暖化対策。京都議定書のこともあり、国を挙げて取り組んでいます。車や航空機、家庭電化製品、工場、船舶などからの二酸化炭素を少しでも減らそうと懸命に尽くしております。

また、リサイクル出来るものは、すべてリサイクルしたりして、なるべくゴミを出さないように努力されています。

でも、まだ不足で、氷山が崩れだして、そこに住んでいた動物たちも住めなくなるなど、影響が出ています。

そればかりではありません。海中でも異変が起きているのです。わかめが採れなくなったとか、鯖が移動しているとか、いかが採れなくなったとか、ウニが採れなくなったとか・・・があります。

(H. S.)

お知らせ

黙 想 会

①「イエスさまと親しくなるために～Ⅱ」

日時：10月18日(土) 16:00～

19日(日) 16:00

指導：山崎政利神父(マリア会)

②「主よ、来て下さい」

日時：11月29日(土)

10:00～16:00

指導：Sr 田中昌子(汚れなきマリア会)

①、②とも申込み、お問い合わせは

汚れなきマリア修道会・町田修道院
シスター高尾

TEL:042-722-6301

FAX:042-725-6317

主のもとに憩う

—祈りのひととき—

日時：毎月第3水曜日 pm7:30～8:30

(8月はありません)

会場：マリア会

シャミナード修道院 聖堂

〒102-0071 千代田区富士見 1-2-43

担当：清水一男神父

問合せ先：Sr. 小林 (Tel 08051883081)

【参加希望の方は、特に申込みの必要はありません。当日会場にお出てください】

発行 『MARIANISTES』編集部

「汚れなきマリア修道会」町田修道院

清水一男神父

〒194-0032 町田市本町田 3050-1

TEL 042-722-6301

FAX 042-725-6317

ホームページ <http://www.marianist.jp/>